

2004/3期決算説明会



平成16年4月

株式会社DNAチップ研究所

DNA Chip Research Inc.

<http://www.dna-chip.co.jp>

・前期決算概要及び今期計画	3	・中期ビジョン	16
1. 財務サマリー			1. 現状分析1		
2. 業績推移			2. 現状分析2		
3. 2004年事業区分別業績			3. DNAチップ研究所の姿勢		
4. 顧客別売上高比率			4. 経営ビジョン		
5. 前期決算ハイライト			5. DNAチップ研究所の経営方針		
6. 今期計画について			6. バイオチップ開発計画		
7. 今期業績計画			7. 受注解析事業に注力		
			8. 特許戦略		
・DNAチップ研究所の現状	11	9. 個人化医療への取組み		
1. 事業概要			10. 日立ソフトとの関係		
2. DNAチップ研究所の競争力			11. 将来の発展に向けて		
3. 市場動向					
4. 共同研究・国家プロジェクトへの取組み					



・ 前期決算概要及び今期計画

- 1 . 財務サマリー



株式会社DNAチップ研究所

項 目	2003年3月期	2004年3月期			対前年度比
		(当初計画)	(実績)	計画比	
売上高(千円)	1,270,701	1,815,000	1,807,784	100%	142%
経常利益(千円)	81,565	100,000	103,920	104%	127%
当期純利益(千円)	45,063	56,000	63,460	113%	141%
総資産(千円)	1,239,821	-	2,469,758	-	199%
純資産(千円)	605,309	-	1,304,570	-	216%
発行済株式の総数(株) ^(注1)	12,600	-	13,600	-	-
一株あたり純資産額(円) ^(注2)	48,040.47	-	95,924.31	-	200%
一株あたり当期純利益(円) ^(注3)	3,576.49	-	5,021.41	-	140%
経常利益率(%)	6.4	5.5	5.7	-	-
自己資本比率(%)	48.8	-	52.8	-	-
自己資本利益率(%)	7.7	-	6.6	-	-

(注1) 期中平均株式数は次の通り。

2003年3月期：12,600株、2004年3月期：12,638株

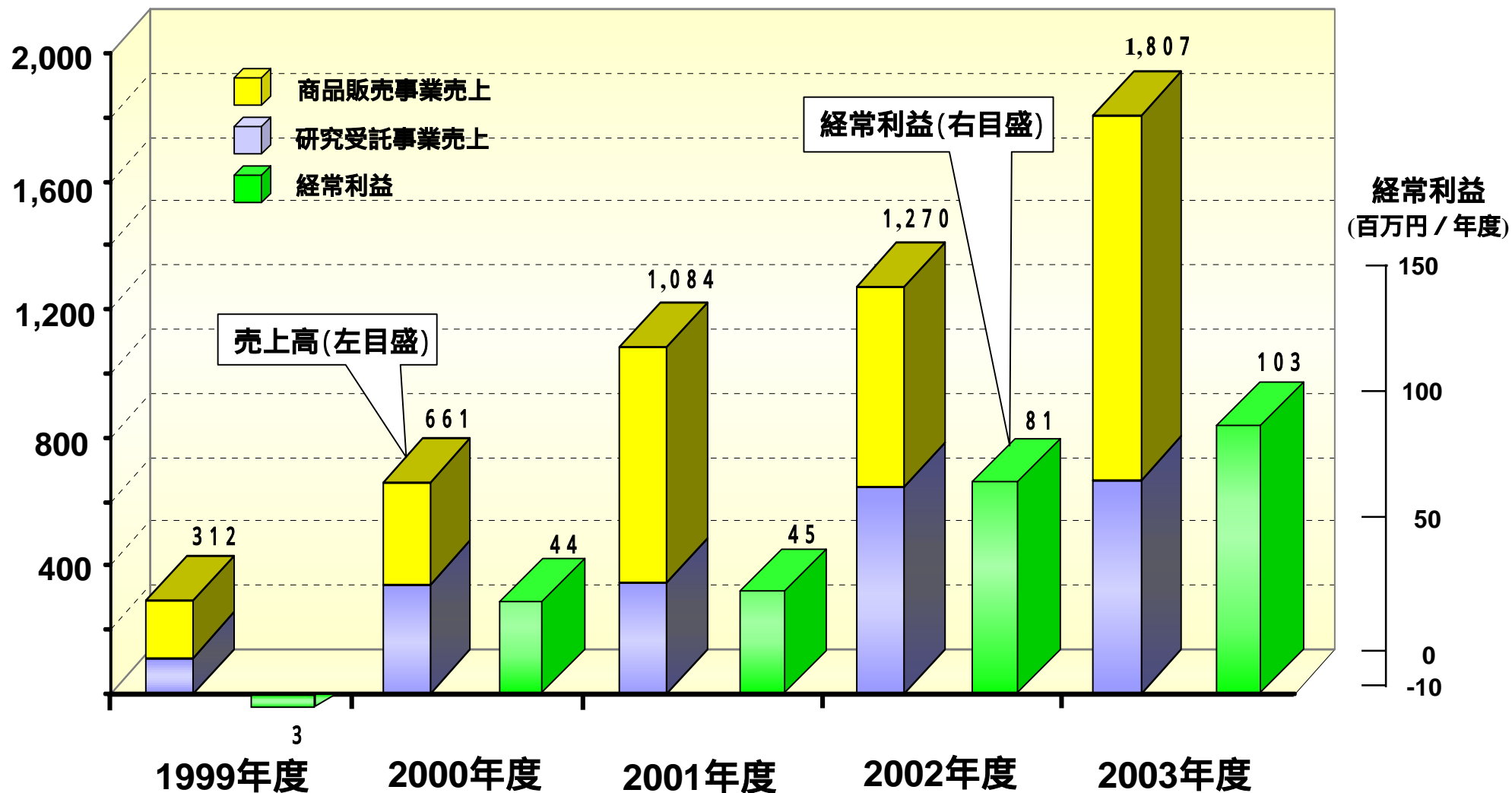
(注2) 一株あたり純資産額：期末純資産 / 期末発行済株式数

(注3) 一株あたり当期純利益：当期純利益 / 期中平均株式数

- 2 . 業績推移



売上高
(百万円 / 年度)



- 3 . 2 0 0 4 年事業区分別業績



株式会社DNAチップ研究所

(金額単位:千円)

	2003年3月期		2004年3月期		対前年 比(%)	説 明
	売上高	比率	売上高	比率		
研究受託事業	644,474	50.7%	663,638	36.7%	103%	▶ 説明1参照
商品販売事業	626,227	49.3%	1,144,146	63.3%	183%	▶ 説明2参照
合 計	1,270,701	100%	1,807,784	100%	142%	

【説明1】

- ・AceGene(Human Oligo 30K, Mouse Oligo 30K)販売増に伴ない、大学、公的研究期間からの受託チップ・解析サービスが対前年度比178%(158百万円)と大幅に増加した。

【説明2】

- ・AceGene(Human Oligo 30K, Mouse Oligo 30K)等汎用チップの販売が、対前年度比133%(143百万円)と増加した。

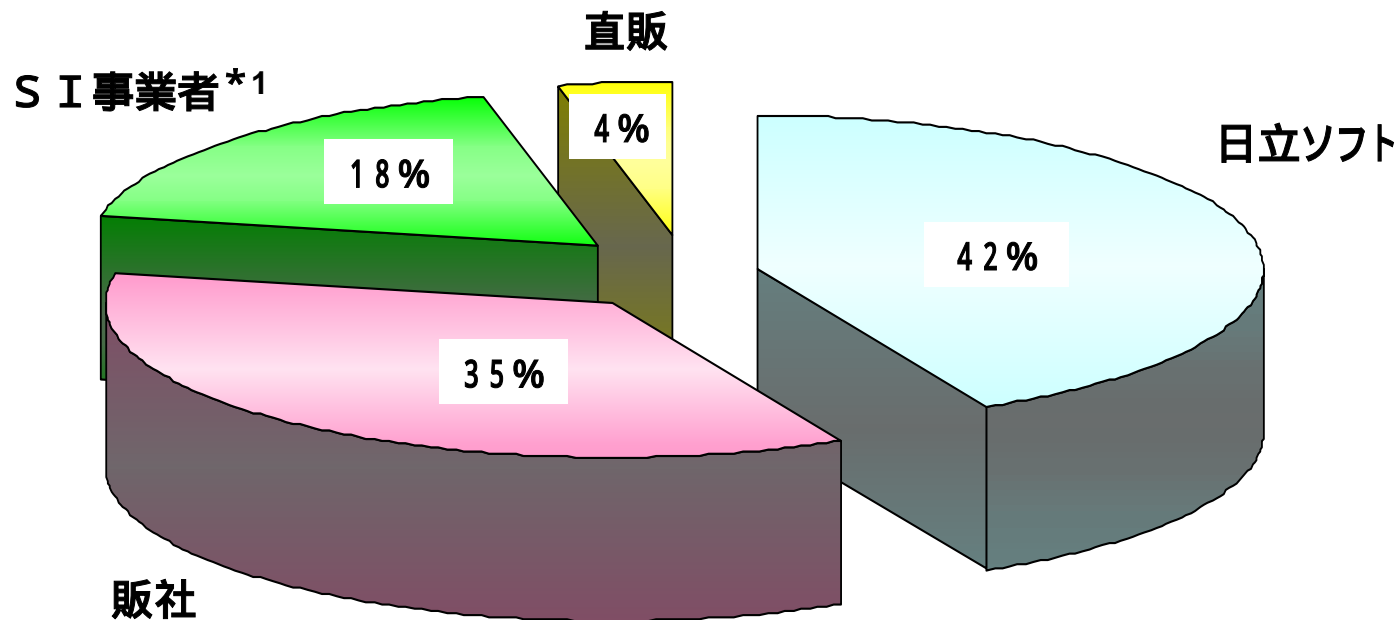
区 分	2003/3月期 売上高(A)	2004/3月期 売上高(B)	伸び率 (B)/(A)	2005/3月期 売上高(計画値)
オリゴチップ	57.4	112.4	196%	238.0
cDNAチップ	50.6	31.2	62%	53.0
合 計	108.0	143.6	133%	291.0

(注)2004/3月期の受託チップの売上は、63百万円と2003/3月期38百万円の166%の伸び

- ・機器・システムの販売において、大学等のバイオ設備新設に伴なうバイオ関連情報機器等の大型案件の売上があり、対前年度比193%(1,000百万円)と大幅に増加した。

- 4 . 顧客別売上高比率

顧客別売上高比率と売上内容



販売ルート	売上内容	顧客	備考
日立ソフト	ライフサイエンス機器、 研究受託*	大学ほか	*：研究受託は日立ソフトから受託
販売会社	受託解析サービス、受託チップ、汎用チップ、 ライフサイエンス機器	大学、研究所、製薬 会社ほか	販社：理科研(株)、和研薬(株) ほか
SI事業者	バイオ関連情報機器	研究所、食品会社等	SI事業者：(株)野村総研ほか
直販	受託解析サービス、受託チップ	製薬会社ほか	

注*1：機器製造・販売会社よりバイオ関連情報機器を仕入れ、SI事業者取り纏めにより販売

1. 売上高対前年度比142%

1.1 受託解析サービスの売上が対前年度比178%

- ・AceGene新規顧客の獲得
- ・カスタムオリゴチップ受託作成の増加

1.2 汎用チップの売上が対前年度比133%

- ・Mouse Oligo Chip 30Kの出荷に伴う売上増加
- ・千葉大、九州大学、日本医科大、理化学研究所等繰り返し受注による、ベースロードとなりうるユーザの出現

1.3 機器、システムの売上が対前年度比193%

- ・大学、研究機関等におけるバイオ関連設備のSI案件受注
(バイオ関連情報機器の大口受注)

2. 経常利益対前年度比127%、経常利益率5.7%

- ・売上増に伴う経常利益の増加
- ・経常利益率の低下(03 / 3月期6.4% 04 / 3月期 5.7%)
 - 新株発行費、上場関連費用等営業外費用増
 - 機器・システムの売上増による商品販売事業比率の増加

- 6 . 今期計画について



項 目	2004年3月期 実績	2005年3月期 予算	対前年度比 (%)
売上高(千円)	1,807,784	2,000,000	111
営業利益(千円)	130,325	100,000	77
営業利益率(%)	7.2	5.0	-
経常利益(千円)	103,920	100,000	96
経常利益率(%)	5.7	5.0	-
当期純利益(千円)	63,460	60,000	95
研究開発費(千円)	47,931	120,000	250
設備投資(千円)	32,982	60,000	182

売上高 : 研究受託事業における受託解析サービス売上増

商品販売事業における汎用チップ売上増

営業利益 : 診断チップの開発等の研究開発投資増による営業利益減少

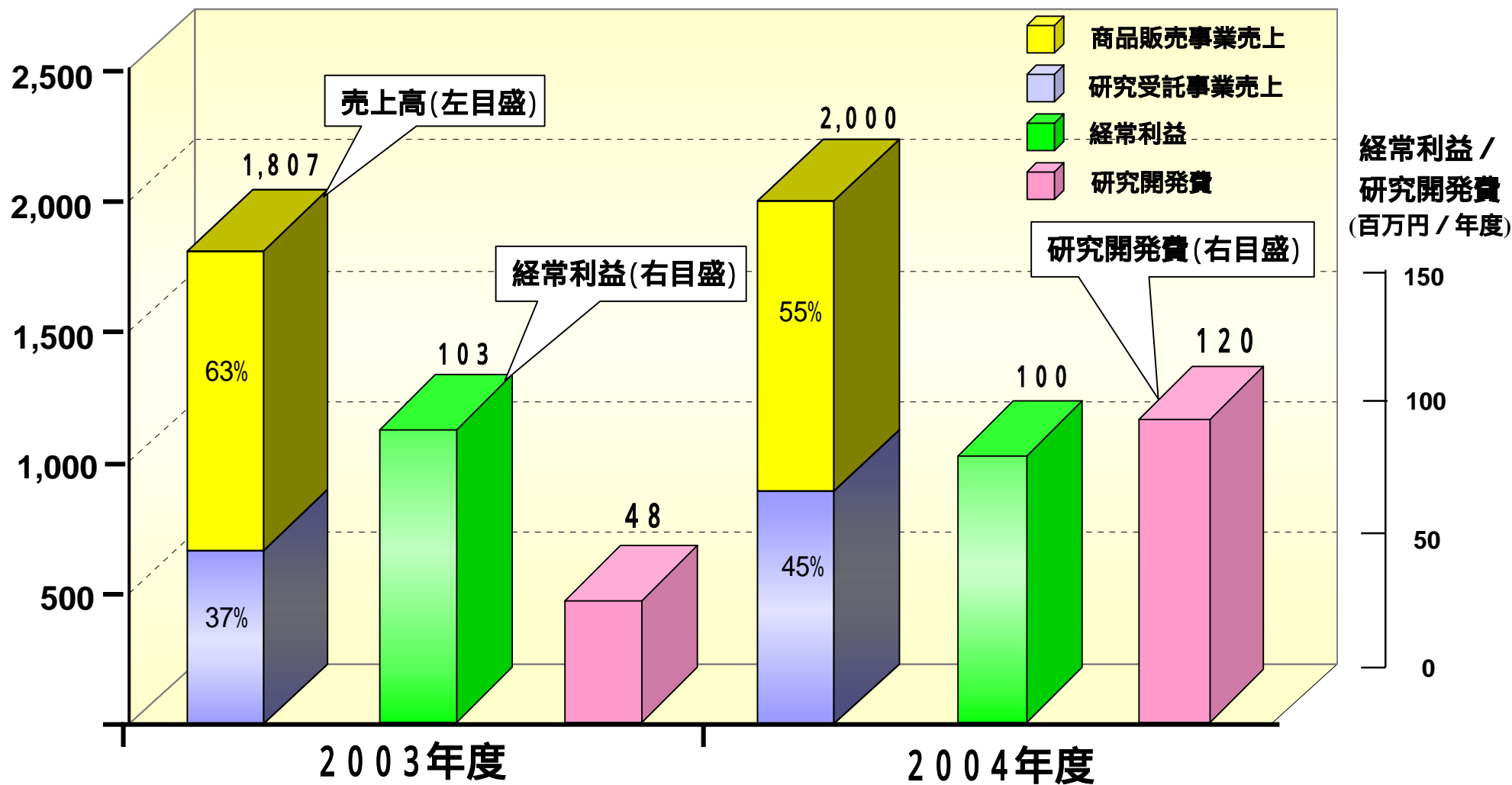
研究開発費 : 癌診断チップ、生活習慣病診断チップ、免疫関連診断チップ等臨床診断用チップ開発のための研究開発費増

設備投資 : 解析受託作業自動化のための設備等導入

- 7 . 今期業績計画



売上高
(百万円 / 年度)

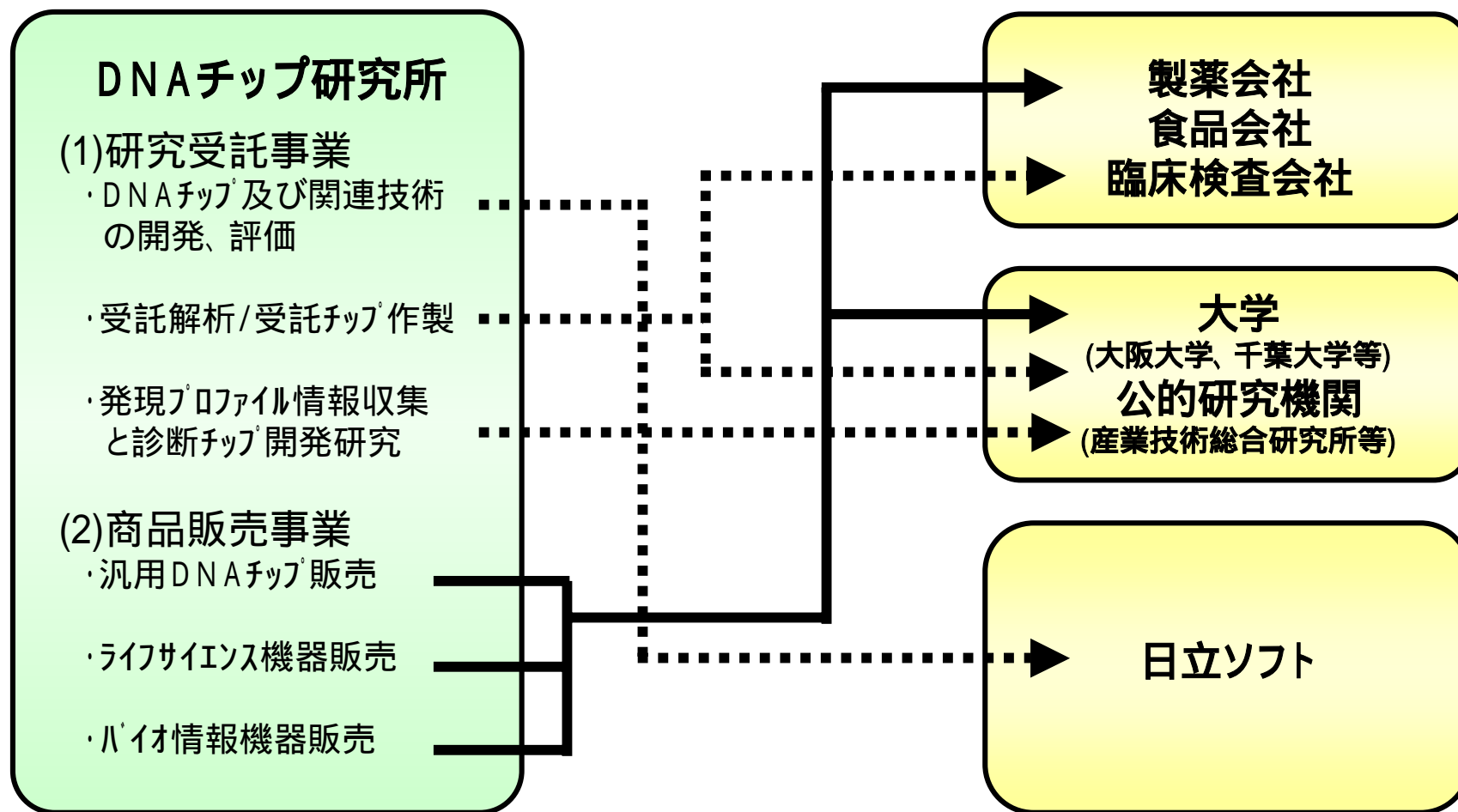




・ DNAチップ研究所の現状

- 1 . 事業概要

事業内容には、研究受託事業と商品販売事業の2つがある。



..... : 研究受託事業

———— : 商品販売事業

- 2 . DNAチップ研究所の競争力

製品名	遺伝子数 (網羅性)	コスト	感度	品質	再現性
AceGene (DNAチップ研究所)	30,000遺伝子	¥59,800	高い 独自のコーティング	有効スポット数: 99.5%	高い
Agilent (アジレント社)	17,800(ヒト)	¥72,960	スポット径が小さい	有効スポット数: 70~80%	高い
GeneChip (アフィメトリクス社)	39,000遺伝子	× ¥1,300,000/ 5アレイ	× 全体的に低シグナル	有効スポット数: 70%	低い:70%程度
CodeLink (アマシャム社)	× 20,000遺伝子	¥750,000/ 6アレイ			高い

AceGeneは、網羅性、価格、品質において
総合的に優れている！

- 3 . 市場動向



研究向け需要中心の市場が2008年頃まで主流

2009～2010年以降は診断向け需要が立ち上がり始める。
遺伝子診断用需要が更に本格化するのは2013年以降。

ゲノム創薬や食品を含めた健康産業向け研究需要が活性化していく

バイオチップ関連市場規模 726億円

大学・公的研究機関を中心とした研究用途向けに対し、食品検査や臨床診断需要が増加していると予測される

バイオチップ関連市場規模 119億円

引き続き大学・公的研究機関を中心とした研究用途向けが半数を占めると予想される

個人化医療や遺伝子治療臨床研究
フェーズが進む
DNAチップの採用可能性大

バイオチップ市場規模 48億2,300万円

大学・公的研究機関を中心とした研究用途向けがほぼ100%

遺伝子診断向け市場は2009～2010年以降需要が立ち上がり始める

(金額単位: 百万円)

項目	年度	201年度 (実績)	202年度 (実績)	205年度 (予想)	206年度 (予想)	208年度 (予想)	2010年度 (予想)
市場規模		4,823.0	5,885.0	11,900.0	13,440.0	41,200.0	72,600.0
内訳	研究市場向け	4,823.0	5,885.0	11,900.0	13,440.0	16,760.0	20,100.0
	臨床診断市場向け	-	-	-	-	24,440.0	52,500.0

2001年度

2005年度

2010年度

- 4 . 共同研究・国家プロジェクトへの取組み



株式会社DNAチップ研究所

平成16年度国家プロジェクト(公募)等の受託研究提案

受託研究題名	公募事業名	申請先
「大量試料の計測・処理に適合する小型集積型バイオチップの製造とその周辺技術の開発」	「平成15年度地域新規産業創造技術開発費補助金」 平成16年も継続(2年間)	経済産業省関東経済産業局
「ゲノム構造と機能の検査による高精度癌診断チップの開発」	「平成16年度産業技術実用化開発費助成金」	独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

上記以外にも、経済産業省、文部科学省等の公募に提案中

現在推進中の臨床診断向けコンテンツ開発のための共同研究

事業提携先 / 共同研究先	契約名	契約内容
大阪大学大学院病態制御外科 大阪府(代表者:大阪府立成人病センター)	共同研究契約 / 研究開発契約	ヒト消化器癌の生物学的特性の診断法の研究開発を共同で実施することに関する契約。
千葉大学大学院医学研究院	研究開発契約締結 交渉中	ヒト呼吸器系癌の診断方法の研究開発を共同で実施することに関する契約
横浜市立大学医学部第 内科	共同研究契約締結 交渉中	モデル動物による、高血圧や糖尿病などの生活習慣病の早期診断や、それに基づく個々の患者に合った治療法を開発するための研究を実施することに関する契約
大阪大学大学院免疫制御学講座	共同研究契約締結 交渉中	リウマチ等免疫関連の診断法の研究開発を共同で実施することに関する契約



・中期ビジョン

DNAチップ研究所のおかれている環境

ヒトゲノム解読でバイオコミュニティに変化が起きた

1. 大量情報生産時代
2. 全部分かっているところから出発するという思考法
3. バイオと情報が結合
4. 具体的にどんな威力が出てきたか

病気関連遺伝子、創薬ターゲットなどに新しいアプローチ
技術、情報、見識、判断がかつてないほどに重要になった

以上を一般にゲノム時代としている

5. ゲノム単語帳は出来た。その次に？

SNP, 完全長cDNA, プロテオミックス等が後継プロジェクトになっている

ポストゲノム時代

- ・ゲノム機能解析プロジェクトが中心となる
(ゲノム単語は集めた、ゲノム文法の理解へ)
- ・遺伝子活性の調節、ネットワーク
- ・再び大量情報収集時代
その威力 (例、癌、脳)
薬効、毒性検査、食品安全、環境
- ・何が起きるか、どう対応するか、今何が出来るか
- ・個人化(テーラーメイド)医療時代へ

企業としてのシーズを重んじ、ニーズのあるところをどう狙うか

1. 国のニーズに貢献したい
日本のデータベース、日本のスタンダード
2. 社会のニーズ
テーラーメイド医療時代への準備
3. 研究者コミュニティのニーズ
当面の研究推進への関心に応える独自技術、サポートシステム

1. 研究開発型ベンチャーとして導入技術に頼らない先進技術開発を進め、その移転・サービスを提供する
2. 自らも一流の研究をし、そこから新しい手がかりを得る
3. バイオの上流を活動の場とし、マテリアル、技術、情報系の全分野をカバーする
4. 国際的情報収集、判断を重視する. 当面ゲノム機能(遺伝子発現プロファイル)から出発する

1. 安定・着実な利益成長

- ・新製品開発による製品メニューの充実
臨床診断用カスタムメイドチップの開発(癌、生活習慣病、免疫関連)
ビーズチップ、PCR等次世代チップへの対応
- ・バイオインフォマティクス事業の推進
- ・頼りがいのある受託製造、受託解析
- ・顧客ニーズにマッチしたチップ・機器販売
- ・高品質・低コストの促進(アライアンスの推進、プロトコルの改善など)

2. 国内トップシェアの獲得

- ・公募増資により得た資金をもとに研究開発のスピードアップ、効率化を図る
- ・多量に、迅速に、安く、正確に、微量で測れる良いチップ
少量多品種、カスタムメイド、互換性

3. 国・社会への貢献

- ・テーラーメイド医療時代の到来に向けた日本のデータベース、日本のスタンダードの確立への積極的参加

7. 受託解析事業に注力



DNAチップの設計・開発及び活用技術と経験を生かし、受託解析メニュー整備と事業の拡大を進め、大学、研究所、バイオ開発研究者が安心してデータ生産を託せる受託解析センターを目指す。

	サービスメニュー	H14		H15		H16		H17		
		上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
1	ライブラリー作成からチップまで受託									変わらない
2	チップ作成受託									かなり拡大
3	検体からRNA抽出、精製、増幅、ハイブリタイゼーションチップ読取まで									大きく拡大
4	データ解析(データ整理、評価)									漸増

8. 特許戦略

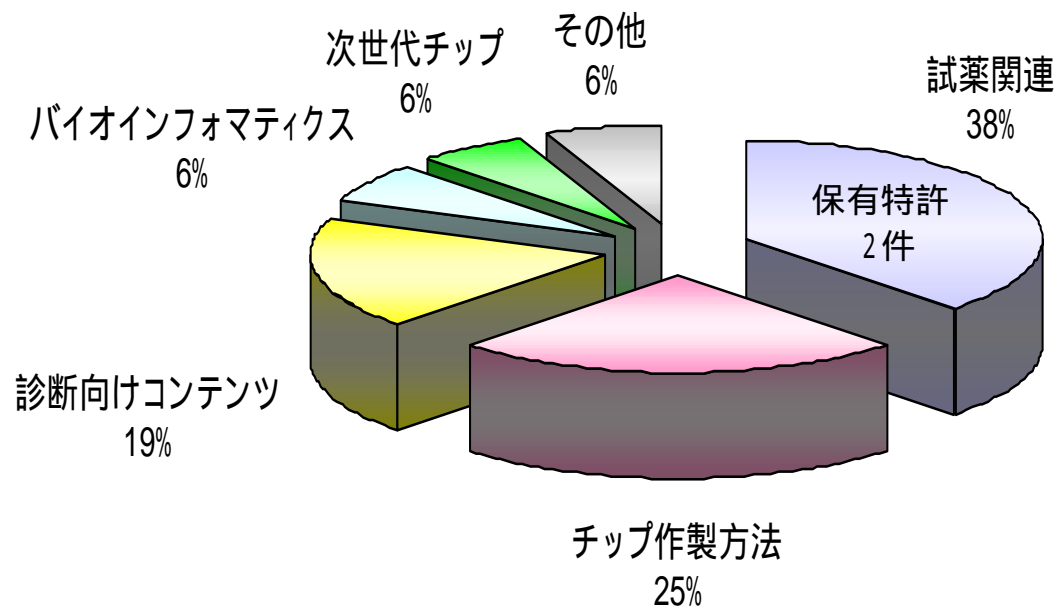


遺伝子機能解析技術と診断等のための遺伝子コンテンツを中心に据えて、ポストゲノム時代の技術に対応し、さらに個人化医療時代に対応できる、ロイヤリティ収益を目指した特許出願を推進する。

特許出願計画

項目	~H13	H14	H15	H16計画	H17計画
出願件数	11件	3件	2件	5件	7件
累積出願件数	11件	14件	16件	21件	28件

平成15年3月時点の特許の内容 (保有特許及び出願中特許: 16件)



個人化医療とは

治療法や薬の投与において、患者の体質や治療段階などによって異なる治療効果や副作用の発生を遺伝子診断（特にSNPs等による診断）によって予測、診断して患者に合った治療を行う医療のこと。特に薬物治療での適応を直接の目的とするところから、独立した市場となる可能性が高い。

個人化医療の市場規模予測

現在年間の副作用報告件数は数万件に上っていることから、その判定検査だけでも件数の10倍以上の潜在需要があると考えられる。
副作用判定以外にも投薬決定前に常用されるなど、その市場は2010年頃には100億から150億円の市場規模になると予測されている。
(出典:株式会社サイリックス「トキシコゲノミックスの進展と市場展望」)

取組み内容

1. チップなどによるSNPの簡易な検出と測定法の確立
2. 日本人を対象とした薬感受性のデータベース作成と治療効果の追跡法の研究開発
3. 体調の変化を測定する共同研究

10. 日立ソフトとの関係



1. DNAチップ研究所はチップ開発・製造・使用技術・データ生産能力に優れている。また、医、薬、基礎研究を含むバイオ研究社会(いわゆるwet分野)と深いつながりを持っている。
2. 日立ソフトは情報収集・処理・ソリューション事業(いわゆるdry分野)に特色を持ち、バイオにそれを活用する意欲を持っている。
3. 両社は相互補完的な発展関係を望んでおり、今後も協力体制を維持する。
4. 経営の安定化、リスクヘッジ等のために、DNAチップ研究所は、日立ソフト以外のパートナーとも積極的に事業展開を図る。

【上場前】

日立ソフト	55.6%
日立ソフト関連会社	12.7%
合計	68.3%



【上場後】

日立ソフト	23.5%
日立ソフト関連会社	9.9%
合計	33.4%

日立ソフトの「子会社から関連会社」へ。事業上の連携は従来どおり継続。

1. **ポストゲノム時代に入りマーケット拡大と技術開発競争が起きている。独自の新技术開発として、沢山、早く、安く、高感度で、微量で、絶対値で、オンデマンドで測定が出来るようにデザインする。**
2. **個人化医療時代に対応できる技術システムの開発が期待されている。**
3. **個人化医療時代に入ると一方でSNPや遺伝子の変異を知り、他方でゲノム機能により体調、薬効等を求めることが重要。研究開発の主眼を共同研究を介したコンテンツビジネス(戦略特許取得)の推進に置く。**

対象は癌、生活習慣病、免疫関連疾患等